

野菜畑作生産情報 第4号

令和元年7月18日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎大豆ほ場の排水対策を徹底しましょう！
- ◎ながいもの追肥は、新しいもの長さを確認して適期に行いましょう！
- ◎曇天が続く場合は、病害の発生に注意し、予防防除に努めましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ア 生育はバラツキがあり、おおむね平年並から下回っている。
- イ 食葉性害虫の被害が散見される。

表-1 大豆の生育状況 (7月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年 (平年差・比)	5/24 (早1日)	6/5 (±0日)	43.3 (111%)	23.8 (115%)	6.4 (+0.6)	3.1 (+1.8)
	平年	5/25	6/5	39.0	20.7	5.8	1.3
	前年	5/25	6/6	39.4	20.7	5.0	1.9
野菜 研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	5/15 (早1日)	5/21 (早5日)	49.3 (102%)	28.8 (110%)	6.9 (-0.3)	1.1 (-0.6)
	平年	5/16	5/26	48.6	26.1	7.2	1.7
	前年	5/15	5/26	49.8	26.4	7.0	1.4

注) 品種は「おおすず」で作況試験データ。
平年値は、農林総合研究所、野菜研究所とも過去12か年の平均値。

(2) 今後の管理

ア 排水対策

大雨などで滞水しないよう、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど排水対策を徹底する。

イ 中耕・培土

生育の遅れているほ場では、速やかに中耕・培土作業を行い、生育量確保に努める。コンバイン収穫時の汚粒発生を防止するため培土高は一定に保ち、開花期(例年7月末～8月始め頃)前に終了する。

ウ 病虫害防除

べと病、アブラムシ類及び食葉性害虫などの病虫害は、発生状況を確認しながら適期防除に努める。

エ 開花期のかん水

開花期にはほ場が乾燥している場合は、着莢促進のため畝間かん水を行う。畝間かん水は朝夕の涼しい時間帯に行い、全体に水が行きわたったら速やかに止める。ただし、排水の悪いほ場では実施しない。

オ 追肥

登熟期間の気温が高く、追肥の効果が期待できる津軽地域では、窒素成分で10 a

当たり5～8kgの開花期追肥を行う。ただし、生育が過繁茂で倒伏のおそれがある場合は行わない。

野菜

(根菜類)

1 ながいも

(1) 生育状況

ア 生育は、おおむね順調である。

イ 病害虫は、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生が見られる。

表-2 ながいもの生育状況 (7月10日現在)

場所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日 (月日)	つる長 (cm)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平成30)	5/24 (2日早)	6/24 (5日早)	未 (—)	137.5 (104%)	22.8 (92%)	9.3 (90%)	2.7 (64%)	5.8 (82%)
	平年	5/26	6/29	—	131.6	24.9	10.3	4.2	7.1
	前年	5/25	6/28	7/19	138.2	18.6	9.5	4.4	6.8
五戸町 (上市川)	本年 (平成30)	5/ 6 (7日早)	6/ 9 (6日早)	7/ 8 (±0)	— (—)	— (—)	15.7 (93%)	6.3 (73%)	8.2 (99%)
	平年	5/13	6/15	7/ 8	—	—	16.8	8.6	8.3
	前年	5/12	6/11	7/ 3	—	—	13.8	7.7	8.2
東北町 (野田頭)	本年 (平成30)	5/ 8 (7日早)	5/30 (10日早)	未 (—)	— (—)	— (—)	13.4 (112%)	4.5 (100%)	4.6 (66%)
	平年	5/15	6/ 9	7/11	—	—	12.0	4.5	7.0
	前年	5/ 6	6/ 3	7/10	—	—	15.3	5.7	7.0

注) ①平年：野菜研は平成19～30年の12か年の平均値。
五戸町は平成14～30年の17か年の平均値。
東北町は平成20～30年の11か年の平均値。

②種子：野菜研は園試系6の2年子(90～110g)ガンク切除。
五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除。
東北町は庄司系の1年子(50～80g)頂芽付。

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。
五戸町は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。
東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)。

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

(2) 今後の管理

ア 追肥

(ア) 追肥が遅れると、収量や品質低下の原因となるので、適期に追肥を行う。

(イ) 追肥は、開始する目安である、つる長及び新しいも長を確認して行い、特に切いも場合は、つるの伸長が1年子や2年子より遅れ気味となるので、必ず新しいも長を確認する。

① 早植栽培(頂芽付1年子、4月下旬～5月上旬植付け)

- ・第1回目の追肥時期は、新しいも長が5cmとなった頃を目安とし、それ以降は、おおむね12～14日おきに、第2回目、第3回目の追肥を行う。
- ・追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とする。

② 普通栽培(頂芽切除、5月下旬～6月上旬植付け)

- ・第1回目の追肥時期は、子いもでは植付後45～55日頃、切いもでは植付後55～65日頃、つる長が200～220cmで主づるの先端がネットの8分目から頂部に達し、新しいも長が10～15cmとなった頃を目安とする。
- ・第2回目、第3回目の追肥は、第1回目からおおむね10日おきを目安に行う。
- ・追肥量は、1回当たりで窒素、加里とも成分量で10a当たり5kgを基準とし、生育が旺盛な場合には追肥量を減らす。

表－3 追肥方法

作 型 (植付時期)		早植栽培 (4月下旬～5月上旬)	普通栽培 (5月下旬～6月上旬)	
種いも		頂芽付・1年子	頂芽切除・子いも	切いも
追肥 開始 の 目安	植付後日数	60日前後	45～55日頃	55～65日頃
	新しいも長	5cm前後	10～15cm	
	つる長	150cm前後 (ネットの5分目程度)	200～220cm (ネットの8分目～頂上部)	
追肥間隔等		12～14日おきに3回 1回目：6/下～7/上 2回目：7/中～7/下 3回目：7/下～8/上	おおむね10日おきに3回 1回目：7/中～7/下 2回目：7/下～8/上 3回目：8/上～8/中	
		遅くとも8月20日には終了する。		
追肥量		1回当たり窒素成分で5kg/10a以内とする。		

イ 病虫害防除

- (ア) 葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。
- (イ) 採種ほ場ではウイルス病の伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。

ウ 風水害対策

- (ア) 台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- (イ) 植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

2 ばれいしょ

(1) 生育状況

- ア 生育は、草丈が平年を下回っているものの、地下部は平年並～平年を上回っており、順調である。
- イ 病虫害は、疫病、アブラムシ類の発生が見られる。

表－4 ばれいしょの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草 丈 (cm)	いも数 (個/a)	いも重 (kg/a)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平年比)	4/ 6 (1日早)	5/ 5 (1日遅)	5/26 (3日早)	6/ 8 (2日早)	78.6 (93%)	3,791 (102%)	388 (111%)
	平年	4/ 7	5/ 4	5/29	6/10	84.1	3,719	349
	前年	3/30	5/ 1	5/25	6/ 7	68.6	3,425	331

注) ①平年：平成19年、平成21～24年、平成26～30年の10か年の平均値。

②萌芽期の平年：平成21～24年、平成26～30年の9か年の平均値。

③品種：メークイン

④作型：マルチ栽培

(2) 今後の管理

ア 収穫

- (ア) 収穫は、茎葉が黄変し、枯れ上がってから10日後位に行う。
- (イ) 掘り取ったいもは、速やかに風通しの良い冷暗所に収納し、厚く積まないで広げておく。
- (ウ) 早掘栽培では、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るか抜き取り、いもの表皮をコルク化させてから収穫する。

イ 病害防除

収穫まで期間がある場合は、曇雨天が続くと、疫病が急激に増加するため、7～10日おきに降雨の合間をぬって予防防除を行う。

3 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 葉数は平年をやや下回っているものの、草丈は平年並で、生育は順調である。
- イ 病害虫は、アブラムシ類、ハモグリバエ類が散見される。

表－5 ごぼうの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平年比)	5/ 4 6日遅	62.2 (98%)	3.7 (95%)
	平年	4/28	63.7	3.9
	前年	5/ 4	43.3	4.4

注) ①平年：平成21～30年の10か年の平均値。
②品種：柳川理想

(2) 今後の管理

ア 病害虫防除

黒斑細菌病、黒条病、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

イ 追肥

追肥を予定している場合は、生育を見ながら適切に行う。

4 夏だいこん

(1) 生育状況

は種作業が6月下旬の降雨により遅れたものの、出芽は良好で、順調である。

表－6 夏だいこんの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)	備 考
平 川 市 (善光寺平)	本年 (平年比)	7/ 3 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	生育観測は設置場所の 標高：約700m ※子葉展開中のため生育 データ無し
	平年	-	-	-	-	
	前年	7/ 2	-	-	-	

注) ①H29年から作期を変更したため、平年値なし（7月中旬は種を6月下旬は種に変更）
②品種：夏秋清光（前年は改良盛夏土心）

(2) 今後の管理

ア 病害虫防除

軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底するとともに、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

イ 排水対策

台風や大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなど、排水対策を徹底する。

(果菜類)

5 夏秋トマト（雨よけ栽培）

(1) 生育状況

- ア 生育は順調で、現在2～3段果房の収穫が行われているが、県南地域では低温・日照不足の影響により着色が遅れている。
- イ ガク枯れや中位葉の葉先枯れのほか、尻腐れ果や窓あき果が散見される。
- ウ 病害虫は、アザミウマ類、コナジラミ類の発生が見られる。

表-7 トマトの生育状況 (7月10日現在)

場 所	年次	定植期 (月日)	1 段花房		3 段花房		5 段花房		収穫 始め (月日)
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	
五所川原市 (藻川)	本年 (平年比)	5/ 3 (2日早)	5/ 3 (8日早)	3.5 (109%)	5/23 (10日早)	2.9 (91%)	6/16 (3日早)	2.1 (78%)	6/21 (3日早)
	平年	5/ 5	5/11	3.2	6/ 2	3.2	6/20	2.7	6/24
	前年	4/29	5/ 7	3.6	5/27	3.0	6/13	3.3	6/26
三戸町 (斗内)	本年 (平年比)	5/ 7 (9日早)	5/13 (15日早)	3.3 (92%)	6/ 7 (11日早)	3.1 (94%)	7/ 1 (4日早)	— (—)	7/ 1 (10日早)
	平年	5/16	5/28	3.6	6/18	3.3	7/ 5	2.7	7/11
	前年	5/11	5/30	3.9	6/22	2.6	7/ 4	1.6	7/16

注) ①設置場所：五所川原市は、H29年から藻川に変更（H28年まで金木）。

②平年：五所川原市は参考値（五所川原市金木の平成16～28年までの13か年の平均値）。

三戸町は平成20～30年の11か年の平均値。

③品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：Bバリア）（前年に同じ）

三戸町はりんか409（自根）

(2) 今後の管理

ア 追肥・かん水

(ア) 追肥及びかん水は、水分要求量が高まる午前8～9時頃に行う。

(イ) 液肥の場合、1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり0.5kgを目安とし、1～3日おきぐらいに行う。曇雨天が続く場合は、肥効が早い硝酸態窒素の多く入った肥料を使用する。

(ウ) かん水量は、1株当たり1.5リットルを基準に、天候を見ながら毎日～3日おきで行うが、予想最高気温が28℃以上の日は、水分要求量が高いので1株当たり2.0リットルとする。

(エ) 支柱誘引やUターン誘引で無摘葉とする場合は、生育が進むにつれて葉の繁茂量が多くなるので、かん水と追肥をそれぞれ慣行より1～2割程度増やす。

(オ) 高温が続くと、着果不良が発生したり、裂果しやすい果実ができるので、通路にかん水する。

ただし、土壌の乾燥が著しい場合に、大量に通路かん水すると軟果が発生するので、最初は深さ1～2cmまで湿る程度にかん水し、2～3日経過してから深さ約5cmまで湿る程度にかん水する。

イ 温度管理

ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。

ウ 病害虫防除

(ア) ハウス内の湿度が高かったり、草勢が低下すると、灰色かび病、葉かび病が蔓延しやすくなるので、計画的に防除するとともに、次の対策を行う。

①換気を行う

②通路にマルチを敷く

③株元の通風を良くするため、収穫が終了した果房の下葉を摘葉する

④摘果、誘引、追肥などの作業を適期に行い、草勢維持に努める。

(イ) 農薬による防除は、薬剤耐性菌が出現しないよう、作用性の異なる薬剤を組み合わせるローテーション散布を行う。

(ウ) 今後、アザミウマ類、タバコガ類の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

6 メロン

(1) 生育状況

ア トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）の生育は、高温・乾燥の影響で着果節位がばらついているものの、おおむね順調である。

イ 病害虫は、アブラムシ類の発生が見られる。

表－8 メロンの生育状況（7月10日現在）

場 所	年次	定植期 (月日)	主 づ る 長 (cm)	主 づ る の 葉 数 (枚)	着果期 (月日)	収穫期 (月日)
つ が る 市 (木 造)	本年 (平年)	5/ 4 (1日早)	197.1 (93%)	25.6 (102%)	6/15 (1日早)	— —
	平年	5/ 5	211.7	25.0	6/16	7/30
	前年	5/ 6	204.9	24.9	6/17	7/31

注) ①平年：平成26～30年の5か年の平均値。
②品種：タカミ（台木：ダブルガードパワー）

(2) 今後の管理

ア 萎れ対策

遮光資材を活用し、高温による萎れや果実の日焼けを防ぐ。

イ 適期収穫

(ア) 収穫は、着果後の日数や外観のほか、試し切りを行い、糖度・肉質の状況を確認して総合的に判断し、果温が低い朝夕に行う。

(イ) 収穫が遅れると発酵果や裂果が発生し、貯蔵性の低下につながるので十分注意する。

ウ 病害防除

(ア) ベと病、黒斑細菌病、アブラムシ類などの発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

(イ) やむを得ず連作した畑では、雨天が続くとつる枯病が発生しやすいので、防除を徹底する。

(葉茎菜類)

7 ねぎ

(1) 生育状況

ア 生育は、3月下旬定植では、平年より10日以上早く収穫期に達しており、4月下旬定植では、草丈、茎径が平年を上回っている。

イ 病害虫では、ベと病、さび病、斑点性病害、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生が見られる。

表－9 ねぎの生育状況（7月10日現在）

場 所	年 次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 径 (mm)	収穫期 (月日)
八 戸 市 (是 川)	本年 (平年)	12/26 (19日早)	3/22 (5日早)	91.2 (91%)	19.7 (95%)	7/10 (12日早)
	平年	1/14	3/27	99.7	20.8	7/22
	前年	12/28	3/29	99.9	21.7	7/10
十 和 田 市 (深沢平)	本年 (平年)	2/ 5 (12日早)	4/23 (6日早)	82.7 (113%)	19.7 (125%)	— —
	平年	2/17	4/29	73.4	15.7	9/23
	前年	2/24	4/23	82.0	18.0	9/13

注) ①平年：八戸市は平成15～30年の16か年の平均値。
十和田市は平成17～30年の14か年の平均値。
②品種：夏扇パワー

(2) 今後の管理

ア 病害虫防除

ベと病、黒斑病等の発生に注意し、早期発見に努め、各病害虫に効果的な薬剤を選択し、防除を徹底する。

イ 培土・追肥

(ア) 生育の進み具合に応じた培土や追肥を行う。

(イ) 最終培土は、太さ20～22mm、収穫20～30日前を目安に行う。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬の使用に当たって、
農薬は適正に使用しましょう。
農薬の飛散を防止しましょう。
農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。
クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等
（厚さ0.03mm以上または難透過性の資材）で被覆してください。
農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
市販されている除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草
剤」があるので御注意ください。
農薬情報 (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
農薬登録情報提供システム
【詳細検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)
【作物名検索】 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにとる！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！

◎～農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

自分にあったセーフティネットに加入し、農業経営に万全の備えを！

- 1 農業共済
「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に補償される制度です。
- 2 農業経営収入保険
令和元年から始まった「農業経営収入保険」は、自然災害に加え、農産物の価格低下などにより販売収入が減少した場合に補償される制度です。加入には、青色申告の実績が条件となっています。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合にお問い合わせください。

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
